



横浜市立恩田小学校 学校だより 7月号

発行 令和2年6月30日

恩田小学校学校 HP
QRコード



「食の記憶」

副校長 齋藤千枝

子どもの頃、夏になると祖母がトウモロコシを蒸かしてくれました。電子レンジのない時代ですから、大きな蒸かし鍋に何本もトウモロコシを入れて蒸かし上がるのに結構時間がかかったことを覚えています。今でも夏になると、食べたくなる大好きなトウモロコシです。また、いとこたちが集まると、祖母はツナの缶詰を甘辛く煮て、それを具にして細巻きを作ってくれました。一本できあがる度に、いとこたちと競って取り合いました。一本まるごとかじりついて食べるのがなによりおいしかったのです。祖母は、他界してしばらく経ちますが今でも懐かしい思い出としてだけではなく、大人になった自分の食生活にすっかり溶け込んでいるようです。

子どもの頃の「食」の思い出は、まだまだたくさんあります。皆さんもきつとずっと語れる思い出があるのではないのでしょうか。特別な日に出る大好きなごちそう、季節を感じる果物や野菜、苦手なものがいつまでもお皿にあって見つめ合う時間、初めて食べる食材の驚きと感動、そう、子どもの頃の「食の記憶」というものは、大人になっても続いていくものだと思うのです。

前任校のことですが、「給食の梅干しをがんばって食べている姿に成長を感じました。」という「あゆみ」の記述がとても微笑ましくて、心に残っています。その子が、がんばって梅干しに挑戦している姿。それを温かく見守り成長を感じている担任の思い。それらがとてもよく伝わってきてうれしくなりました。苦手だった野菜が給食を通して食べられるようになったという話もよく聞きます。

3月2日を最後に給食がとまってしまいました。学校が再開する6月1日をなによりも心待ちにしていた自分ですが、「給食再開」も同じように心待ちにしていました。この4ヶ月間、給食恋しさに同じメニューを家でも作ることが度々ありました。「キュウリの梅肉あえ」が簡単にできて今の季節にもぴったりで一番楽しみました。きっと、お子さんにせがまれて給食メニューを作ったご家庭も少なくなかったのではないのでしょうか。

これまで、学習のみでなく給食もない中でそれぞれのご家庭で食育をされていたことに深く感謝申し上げます。これまで以上に配慮をしなければならないことを全職員でしっかりと確認し、安全な給食を一番に考え指導していきたいと思えます。

さあ、明日から初めて食べる1年生は「給食」とどんな出会いをするのでしょうか。久しぶりに食べる2年生以上の子どもたちもわくわくしていることでしょうか。恩田小の子どもたちは、これからどんな食の思い出を作り、記憶され大人へと成長していくのでしょうか。給食を通して、日々の学びを通して食の大切をこれからも見守り、指導、支援をしていきたいと思えます。